



新規採用職員 ^{すが} 菅 技師「神武天皇」になる！

2月11日（日）の建国記念日に、神話の里高千穂の一大イベントである建国まつりが、コロナ禍を経て4年ぶりに開催されました。

建国まつりを盛り上げ、高千穂をPRする6人の神様の1人に選ばれた西臼杵支庁農政水産課 ^{すが けいすけ} 菅 敬祐 技師（宮崎市出身）が、神武天皇に扮して白馬にまたがり、りりしい面持ちで長く続くパレードの列を先導しました。

今年度、県庁に入庁し初めての赴任地が高千穂町となった菅 技師は、「地元の方々のたくさんの笑顔に出会いました。この方々が住む西臼杵の農業のために頑張りたいです」と話していました。

建国まつりのメイン会場となった高千穂町中央体育館前で行われた国引き大会（綱引き）には、西臼杵支庁チームも出場し、足がつりながらも必死で綱を引きました。成績は1勝1敗と惜しくも決勝進出を逃しましたが、運動不足を解消し、次は優勝を目指そうと誓い合いました。



国引き大会（綱引き）

ウーロンちゃ 西臼杵の烏龍茶ってすごい！

～ 対談で明らかになる “神がかり” 物語 ～

西臼杵農業改良
普及センター

たかしま かずひこ
高嶋 和彦 主幹

1995年に入庁し、
から県総合農試茶
業支場で茶技術
研究に携わる。

2009年から西臼杵農業改良普及
センター。2012年に再び茶業支場
に配属となり萎凋機いちょうきの開発に携わる。
2022年から現職。



日本では台湾産や中国産のよ
うな香りの高い烏龍茶を生産す
ることは困難とされていました。
その定説をくつがえし、西臼杵地
区烏龍茶研究会は、全国、世界
へと発信できる質の高い烏龍茶
の生産に成功しました。

研究会が発足して15年。ここに
至るには、まさに“神がかり”のよ
うな物語がありました。

西臼杵地区
烏龍茶研究会

かい まさや
甲斐 雅也 会長

1995年就農（釜炒
り茶）。「日本茶
AWARD」に烏龍
茶を出品し、2015年
日本茶大賞の特別賞
（香り部門1位）、2022年に日本茶
準大賞受賞。2009年から西臼杵
地区烏龍茶研究会会長。



西臼杵の人柄のよさ

高嶋 主幹 雅也さんをはじめ烏龍茶研究会の会員が「日
本茶AWARD」で賞を何度も受賞するなど、全国的に高
い評価を受けています。今回は、研究会として宮崎日日
新聞社農業技術賞を受賞しました。

甲斐 会長 烏龍茶研究会12名のみんなの成果です。烏龍
茶をつくっていない生産者もいて、気にかけてくれたり、
一緒に考えてくれましたし、**お茶に関しては、もう「仲
間」なんですね。**関係機関の支援もあってのことです。
そもそも、高嶋さんが西臼杵に来なければ、烏龍茶研究
会はなかったじゃないですか。

高嶋 主幹 そうでしたね。2009年3月にSAPの茶専門部
会は解散してましたけど、試験場で釜炒り茶に関わって
いた私が4月に西臼杵農業改良普及センターに赴任したら、
「じゃあ、もう一度集まって何かやろう」ということにな
りました。それで、「烏龍茶がいいちゃねえ？」と軽い
ノリで始めましたね。

甲斐 会長 あの頃、2番茶の価格がすごく落ちていました
からね。研修でみんなに声をかけたら、たくさん生産者
が集まったこともありました。簡単にできるかもしれな
いという期待もあった。だけど、全然、そうじゃなかつ
た（笑）。

高嶋 主幹 でも、産地全体でやろうということは初めに
決めてましたよね。**みんなに声をかけて、絶対、自分だ
け先に行こうとはしない。共同意識というか、そこが西
臼杵の人たちの人柄のよさなんですよ。**

県職員としての熱意と生産者としての誇り

高嶋 主幹 こちらとしては、3年いるうちにどんどん仕掛
けて結果を出したい。でも、西臼杵の人たちは協調性を
大事にするから、なかなか進まない（笑）。

甲斐 会長 高嶋さんは、お茶に対してものすごく熱くな
る人だから（笑）。

高嶋 主幹 あの頃は、私もまだ技術も知識もあまりな

かったから、あれしてみよう、これしてみようと提案し
てました。飲料メーカーから講師を呼んだり、みんなで
視察に行ったり。

でも、電話しても出てくれない。だから、押しかけて
行って・・・。

甲斐 会長 僕たちにしてみれば、お茶の時期は忙しいし、
家のこともあるし、休みたい。でも、「また、高嶋さん来
た！」って言いながら付き合ってたよね（笑）。

高嶋 主幹 曲がりなりにも2010年には「烏龍茶」はできま
した。しかし、香りがなかった。当時は国産の烏龍茶は
珍しかったから、売れるには売れましたけど・・・

ところが、**研究会の誰かが「これは違う」と言い始めた。
「この烏龍茶には技術がない」と。やっぱり、そこは生産
者としての誇りですよ。**私は、農家の所得を上げるこ
とが仕事なので、そのままでいいと思ったけど（笑）。

甲斐 会長 僕も、こんなぼんやりとしたものを売って
いいのかという疑問はありました。**自分たちには、質の高
い釜炒り茶をつくっているという自負があります。だか
ら、烏龍茶をやるにしても、やっぱり質の高いものを目
指すべきだということになりました。**それから試行錯誤
が続くわけですけど・・・。

高嶋 主幹 日本の緑茶用品種では、香り高い烏龍茶の生
産は成功例がなかったからですね。どの程度、**萎凋※**
をすればいいのかという情報も台湾や中国から入ってき
ていなかった。

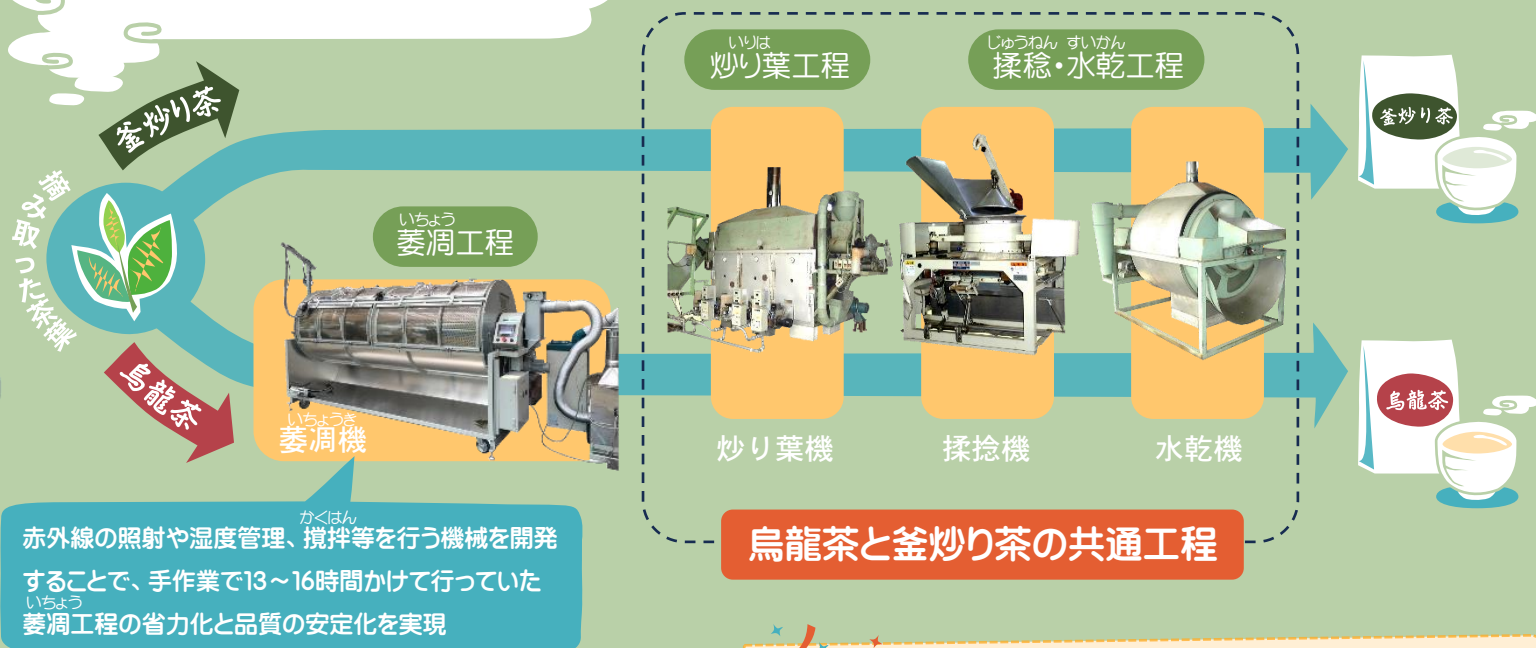
甲斐 会長 それで、研究会のメンバーがある詳しい方を
呼んできて、その方から熱心にアドバイスをいただきま
した。そして、ある時、香りの高いものができた。みな
な盛り上がりましたね。2011年のことでした。

※萎凋（いちよう）とは・・・

摘み取った茶葉を、天日に干したり、風通しのよい場所など
に放置したり、**攪拌かくはん**させたりして、**葉を萎れしお**させて香りの発揚
を促す工程のこと。従来、手作業で行われてきた。



烏龍茶と釜炒り茶の製造技術



高嶋 主幹 みなさんが、何度も失敗しながら、諦めずに西臼杵の品種に合う萎凋技術を習得したことはすごいことです。でも手作業では13時間以上もかかる。品質も安定しませんし、量産化もできない。その様子を見ながら、私は、『西臼杵の人たちが烏龍茶で儲かるようになるためには何をすべきか』と、もう一度自分に問い直したんです。

伝統技術と新たな技術の連結

甲斐 会長 その答えが「**萎凋工程の機械化**」でしたね。高嶋さんは、2012年に、普及センターから再び試験場に異動になって、萎凋機の開発に取り組んだんですね。

高嶋 主幹 香りの高い烏龍茶をつくるには、釜炒り茶の技術とつなげることが絶対必要です。幸い私は、釜炒り茶の技術も研究していたし、烏龍茶もみなさんとたくさん失敗していた（笑）。だから、頭の中には、釜炒り茶の技術と組み合わせてこういう萎凋機をつくれればいいというイメージはあったんです。

ただ、ところどころで製茶機メーカーの特許にぶつかるので、共同開発という形をとったんです。そして、2014年にでき上がった萎凋機を、試験研究の実証事業として雅也さんのところを含めて2戸の生産農家に入れました。

甲斐 会長 そしたら、いきなり結果が出た。その2戸が「日本茶AWARD」の特別賞を2014年、2015年と立て続けに受賞して大きく流れが変わりましたね。以降も、紅茶を含めて全国レベルの実績を重ねることができています。



西臼杵地区烏龍茶研究会のメンバー（西臼杵3町12人）

西臼杵産烏龍茶の 日本茶AWARD受賞歴（品種）

2022年	日本茶準大賞	（たかちほ）
2021年	プラチナ賞	（みなみさやか）
2019年	ファインプロダクト賞	（うんかい）
2018年	ファインプロダクト賞	（べにふうき）
2017年	ファインプロダクト賞	（べにふうき）
2015年	日本茶大賞特別賞（香り部門1位）	（みなみさやか）
2014年	日本茶大賞特別賞（香り部門1位）	（みなみさやか）

西臼杵の気候風土も影響？

高嶋 主幹 そもそも、西臼杵で栽培されているお茶は、平場とはちょっと違うんです。わりと自然に任せる肥培管理や、寒暖差が大きいことも影響していると思います。

甲斐 会長 いろんなことが絶妙に噛み合った。まさに、“神がかり”の成果ですね。

これからに向けて～産地としての発信の強化～

高嶋 主幹 西臼杵のお茶は、業界での評価は非常に高いものがあります。しかし、他県の有名産地と比べると、消費者の認知は広がっているとは言えません。個々の生産者は情報を発信しているんですが、「産地」としては弱い。

甲斐 会長 烏龍茶研究会は、普及センターの協力を得て、2月7日（水）に高千穂峡で試飲・販売イベントを開催しました。観光客の方に実際に烏龍茶を飲んでいただいたら、皆さん、「あっ！」と驚くんです。

高千穂は県内でも随一の観光地で、情報発信をするにはとても恵まれた環境にあると思います。イベントを共催できた（一社）高千穂町観光協会には、ホームページにも研究会の情報を載せていただいていて、とても感謝しています。ワクワクしながら、観光とお茶を生かし合いながら発信を続けていければと思っています。

高嶋 主幹 これからは、幅広い協力を得て、産地としてのブランディングに力をいれていきましょう。普及センターも全面的にバックアップさせていただきます。

西臼杵郡障がい者就労系事業所連絡会

の研修会が行われました

2月21日（水）に、西臼杵郡障がい者就労系事業所連絡会の研修会を実施しました。

障がい者就労系事業所では、働く意欲はあるものの障がいがあることで、一般企業への就職が難しい方や働けるか不安を感じる方に対して、就職するために必要な知識やスキルなどを身に付けるための支援を行っています。

今回の研修会では、そのような事業所で日々障がい者の方々に寄り添って支援を行っている16名の参加者に、県障がい福祉課の満安主事が「障がい者差別の解消について」というテーマで、障がい者の方々と一緒に業務を行う上で意図せず起こってしまう差別の事例などを紹介しました。

障がいの種類や特性は多様であり、それぞれの個性に合った支援が必要です。しかし、刃物や工具を使って作業しても安全上問題が無いにもかかわらず、単純な手作業ばかりをさせるなど、個々の障がいに配慮して業務内容を決めたつもりが、差別的な扱いに該当してしまうケースもあります。

参加者は、これらの事例を研修の中で改めて確認し、「障がいのある方の支援をする中で、差別、配慮の違いは頭では分かっていたが、事例を交えた説明で改めて違いに気づく点も多かった。福祉関係の事業所だけでなく、一般事業所の方にも研修をおすすめしたい」と話していました。



西臼杵フェイスブック
「ウキウキ！好き好き！ニシウスキ！」 更新中！

素材生産事業体による 再造林推進モデル事業 現地研修会を開催

宮崎県は、国内有数の木材供給県ですが、伐採後、再造林がされない林地が増加しています。

このため県では、今年度、再造林を核とした「グリーン成長プロジェクト」を立ち上げ、再造林対策を加速させていくこととしています。

そのためには、伐採から地ごしらえ・植栽の作業に速やかに移ることが効率がよく、素材生産事業体（伐採業者）にも積極的に再造林に取り組んでいただく必要があります。

特に、西臼杵では、急峻な山林が多く、人力で資材等を運搬する負担を可能な限り減らすことが望まれます。

2月8日(水)には、「素材生産事業体による再造林推進モデル事業」による現地研修会を、日之影町の抜屋林業さんが所有する山林で開催しました。

研修会では、まず、抜屋林業さんがドローンを使ってスギコンテナ苗やシカ防護柵の資材の運搬のデモを行いました。また、最新の電動アシストスーツや、植栽すべき位置を自動で指示することができる高性能GPSのデモンストレーションがありました。

県では、これらの先進的な技術も十分に活用し、林業の省力化・低コスト化を図り、再造林率のアップにつなげていきたいと考えています。



ドローンを使った苗の運搬



電動アシストスーツを着て重量物を持ち上げる様子



研修会場となった急傾斜地の山林

発行／宮崎県 西臼杵支庁 編集／総務課
〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井22
TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760

神話伝説の山里
「高千穂郷」通信



西臼杵支庁Facebook



「ウキウキ！好き好き！ニシウスキ！」 ほぼ毎日更新中です！

西臼杵支庁の仕事や管内（高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町）の魅力を発信しています！ぜひご覧ください！

